

## まだまだ元気・現役 (1) SONY IC-11



吉田英生 (S53/1978卒)

冷戦下の米国とソ連が人類発の月着陸を目指して激しく競争した1960年代、結果的には米国のApollo 11が1969年7月に目標を達成した<sup>(1)</sup>——その意義は必ずしも全面的に賞讃されるものではない<sup>(2)</sup>が、この競争に触発されて種々の科学技術が飛躍的

な進歩を遂げたことは確かである。今もなお世界中の空を飛んでいるジャンボ・ジェットBoeing 747が初飛行したのも、1969年2月であった。

FM・SW・AMの3バンドラジオでシルバーのSONY Solid State IC-11(ICF-110)が発売されたのは正に同時期の1969年3月、筆者が今も愛用しているブラック版(ICF-110B)は、日本万国博覧会(大阪)が開催された翌1970年3月発売なので昨年で50歳。当時、筆者は電波の弱い関西の田舎に住む中学生であったが、このIC-11を買ってもらったら、大阪の局からの放送が問題なく聴けるようになって嬉しかった思い出がある。(なお、FM放送をステレオで聴けるよう、本体に接続する補機も別売されていたし、当時は週刊雑誌のFM fan(1966-2001)や週刊FM(1971-1991)などが1週間分の番組も掲載していて、カセットテープなどにエアチェックするといったことを楽しみにする人が多かった。カラーテレビが普及し、モノクロ番組と混じってカラー番組の割合が増え出したのもこの頃であった。)

色については、カメラの名機ニコンF(1959-1974)のブラックボディが当初はプロ用の特注品だった時代であり、このIC-11ブラック版は消費者にブラックが身近な色となって好まれ始めたきっかけの一つではなかろうか。デザインも美しくかつ力強く(1970年のグッドデザイン賞)高度成長中の日本の勢いを感じさせる。

わがIC-11は50年間で一度だけ修理には出したが、今も感度はいいし音もいい。むろん2014年に導入されたワイドFM(90.0~94.9MHz帯域)には対応できないが、この愛機はいつまでも元気で現役、筆者の人生に寄り添ってくれるだろう。

(1) [http://www.wattandedison.com/Apollo\\_yoshida.pdf](http://www.wattandedison.com/Apollo_yoshida.pdf)

(2) [http://www.wattandedison.com/Moon\\_Bertrand\\_Russell.pdf](http://www.wattandedison.com/Moon_Bertrand_Russell.pdf)